

# 天気が良くて悪雪に泣いた 上越 セツ小屋山 186.3.9 (快晴)

参加者 田中健 白沢光代 手塚紀恵子 佐藤晶彦  
佐藤正春

上野発 22.45分の石打行きに乗車したら、土樽駅を通過してしまい、中里駅で仮眠する。朝一番の電車下り引返す。予定下は6時出発だったが、一時間も遅れ7時に出発する。雪が締まっていてシルが良くきいて順調に進むが、30分程歩くと佐藤(晶)氏のシルのバンドが切れトラブルはあったが、針金で何なく直してしまった。

林道から、蓬沢づたいに登りスロツケで冬尾根取付のやや上部で休む。ここで全員スキーアイゼンを着ける。

私はスキーアイゼンを使うのが今回初めてであったがかなりの急斜面でも登れる。山回りキックターンはまだ下午である。樹林の中をジクを切りながらキックターンで登り大斜面下の1350m近くで休む。天気は快晴で苗場山、仙ノ倉山、平標山、日白山など良く見え気分が良い。

大斜面をキックターンで登り、シジゴヤの頭からの稜線に出る。この大斜面は滑降は快適そうである。

あと一登りで谷川連峰の1544mに出た。国境稜線に大休止。食糧を食べた。ここからセツ小屋山まで空身で行く事になった。佐藤(晶)氏だけ小さなサアザックを持って来たので多少持って登る。白毛門～谷川岳まですべて見渡せて良い事だが、雪が腐って悪雪になる心配がある。

シカグラの中を登るが、スキーアイゼンが良くきいて快適であるが、小さいながらも滑降がある。スキーアイゼンを着けたままの滑降である。ブレーキが利いて恐いの何?? ---。

皆んなよくやるよ。さすがYSDである。

感心するよりも呆れてしまった。

最後の斜面をジクを切りながら登るとセツ小屋山山頂である。

スキーアイゼンとシルを外して滑降の準備をする。

セツ小屋山頂から滑降する。湿雪でやや重い。また滑  
べりやすい。スキーアイゼンで滑った所は夏道づたいにトラバ  
スをしてバス。シカブラを直滑降で登る。

1544mにてザックをかいて滑る。一部狭い所があり蓬沢  
側に落ちないよう滑り、蓬沢の大斜面の稜線に立つ  
リーダーの田中氏より先に滑りたい人は滑ってもいいですよ  
と言ってくれたので、私が最初に登り込む。

1月に入ったばかりの新人にトップで滑らしてくれる先輩達に  
感謝しながら湿雪のザラメ雪を滑る。

最初に滑ったので皆んなの滑りの写真を撮る。

樹林帯に入ると、とたんに悪雪に変わる。

雪が完全に腐ってしまい自分のスキーの技量ではどうしようもない。  
ジャンプターン、ステップターンと色々試して見たがムダであった。  
転ぶのは私一人では無く、今日のメンバーはスキーのレベルがほとん  
ど同じであった。

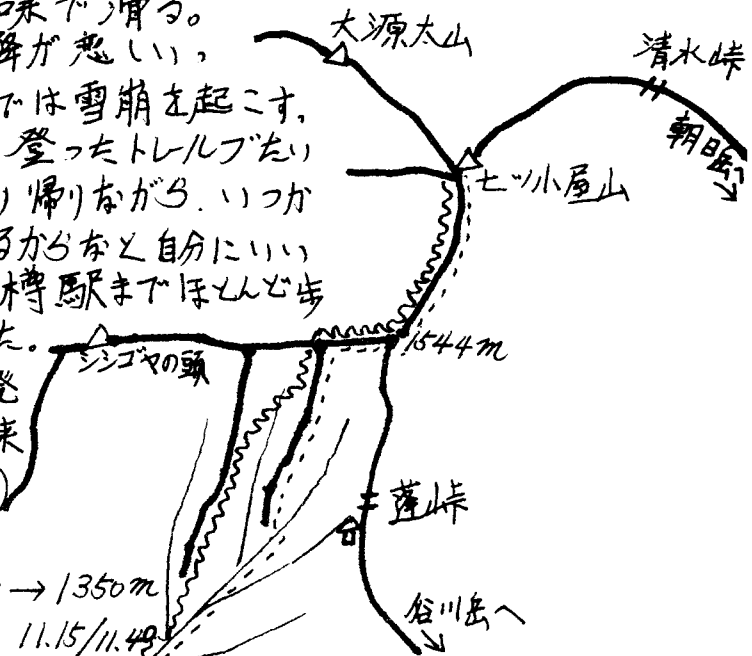
小沢を本程、横切って登った尾根の右の尾根を滑る。

下るにしたがって雪は重くなる一方でどちらに曲がるかはスキーに固  
いてキとヤケクソ気味で滑る。

日白山の深雪滑降が嬉しい。

沢に下る急斜面では雪崩を起こす。  
無事蓬沢に下り、登ったトレルづたい  
に滑る。後ろを振り帰りながら、いつか  
は深雪を滑りに来るからなと自分にいい  
きかせながら下る。土樽駅までほとんど歩  
かずに滑る事が出来た。

タイミング良く15.14分発  
の電車に乗り乗る事が出来  
た。(佐藤正春記)



タイム土樽駅 7.00 → 1350m

10.25/10.35 → 1544m 11.15/11.49

→ セツ小屋山 12.15/12.30 →

1544m 12.50/13.10 →

土樽駅 15.10